



思考への探求

校内研究だより
令和5年9月28日
No.3

学ぶこと・考えることを楽しむ

～全教科で育てる「言葉の力」

思いを伝え受けとめ(個別最適な学び)ともに学ぶ(協働的な学び)子どもの育成～

9月26日、今年度3回目の校内研究が行われた。今年度3回目の校内研究は、「算数科」での実践となった。4年2組で行われた「どのように変わるか調べよう」では、正方形とつまようじの数の関係を、図や表、式などを用いて説明する方法を考えていった。



つまようじを正方形になるように並べていった時、10個の正方形を作るには、つまようじは何本いるかという問題であった。まず、正方形とつまようじの数を表した表を作成し、その図などをもとに○と□を用いた式に表していった。実際につまようじを動かしながら考えている様子も見られ、児童それぞれが自分なりの考え方で式を組み立てる様子が見られた。

問題解決ができると、近くの児童同士で自分の考えを発表し合った。立式することができた児童は、積極的に周りで悩んでいる友達に図や表を用いて説明をしており、分かりやすく伝えようという姿勢が素晴らしかった。

発表の際には、自分なりに表現した方法をホワイトボードのつまようじの図を使いながら説明していた。聞いている児童も、「私と同じ考え方だ!」や、「ぼくは少し違う考え方をしたよ!」など、自分の考えと照らし合わせながら、他の友達の意見を聞く様子が見られた。発表の際に出てきた考え方の他にも様々な方法を提案しようとする児童もあり、とても意欲的な学びの時間となった。



研究協議会では、新潟市立上所小学校の教諭である志田倫明先生をお招きし、授業と協議会の指導・講評をいただいた。学ぶこと・“考えることを楽しむ”という研究テーマを目指すところとした授業実践の方法や、問題を発見し、提起できる力が重要であり、授業は学びの入り口であるということをご指導いただいた。今回の算数科でいうと、「変わるものの中の変わらないものを見つける」ということが考え方の重要な部分となっていることを学んだ。今回ご指導いただいたことを意識しながら、算数科の授業だけでなく、他教科にも生かして、文教大学付属小学校全体で授業の質を高めていきたい。



